

審議内容整理表

審議部会		第1回	
整理 番号	事業名	農業競争力強化基盤整備事業(燕栗沼地区)	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	庄子委員 吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ラムサール条約に基づいて特別な配慮がなされているので、その効果について評価調書に加筆いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で取り組んでいる、農薬、化学肥料を軽減する取り組みについて評価調書等に説明を追記する。
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等

審議内容整理表

審議部会		第1回	
整理 番号	事業名	水利施設等整備事業(柴田地区)	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	庄子委員 吉田委員	・現在の事業費ベースでの進捗率が48.3%と記載されているが、令和6年度に完了するのか。	・河川協議等の対外調整、設計の見直し等に日数を要したが、令和5年度、令和6年度に数件の工事を発注し、事業完了する予定である。
2	郷古部会長	・残工事はどのような内容か。	・川幅全体をせき止めているメインゲートの補修が残っている。具体的な内容としては、ゲートを現場で引き上げて再塗装する工事や、ゴム等の部品交換等の工事となる。
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等

整理 番号	事業名	農村整備事業(柳田峠2期地区)	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	吉田委員	・便益項目中の営農に関わる走行経費節減効果については、農業の内容・作物の種類等々に依存するか。より付加価値の高い作物であれば、その時間価値が高まる仕組みとなっているか。	・御指摘の作物の時間価値が高まる仕組みについては、別の便益項目である、品質向上効果の中で、算定している。品質向上効果では、作物生産の立地条件が改良又は維持されることに伴う、生産物の品質への影響に関する効果を算定している。
2	植松委員	・宮城県全体として考えた際に、50世帯に約20億円をかけることは必要なのか。 (※事務局注：全体事業費は約10.9億円)	・既存の道路では営農上支障を来しており、本事業は中山間地域において、農業を持続していくためには必要だと考えている。
3	庄子委員	・事業の目的である、農業を維持していくために必要な効果として、再評価調書4ページに記載のある、災害発生時の代替路線(迂回路)としての有用性の部分大きいと見ているが、代替路線として期待されることに加え、どのような効果が見込まれるか等、有意義な部分を打ち出せると良いと考えるがどうか？	・御発言のとおりであるが、便益の算定項目に防災機能の項目がないため、効果の算定は困難である。
4	吉田委員	・費用便益費が確固たるものであれば、その数値に基づき、継続されるべきかを判断すべきと考える。費用便益比は1を上回っている状況なので、この事業は継続すべきと判断されると思う。	—
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等
			・今後、工事を進めるに当たっては、コスト縮減に努めること

審議内容整理表

審議部会		第 1 回	
整理 番号	事業名	河川事業	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	庄子委員	<ul style="list-style-type: none"> 浸水被害が発生していることから、事業の早期完成が期待されるが、完成予定年度がだいぶ先である。早期完成に向けた取組み状況を教えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 南沢川と雉子尾川を令和 2 年度より個別補助事業化するなど、集中的に工事を進めている。引き続き早期完成に向け予算確保に取り組んでいく。
2	庄子委員 吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> 個別補助事業化について説明を追記していただきたい。 個別補助事業化により事業が進捗するということを、県民に分かりやすく記載していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 県民に分かりやすい表現に調書を修正する。
3	植松委員	<ul style="list-style-type: none"> 調書にコスト削減計画が記載あるが、今回評価時までのコスト縮減結果を記載すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回評価も築堤材を流用する計画だった。工事内容を精査した上で、コスト縮減結果を記載できるか検討する。
4	植松委員	<ul style="list-style-type: none"> 小田川は前回評価からの事業費増加割合が他 2 河川と比較して大きく、2 倍となっているのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> 小田川は他 2 河川と比較して残事業量が多く、全体事業費の算定精度は高くなかった。今回事業費を精査し、構造物が多い等の理由で約 2 倍となっている。
5	吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> 水害被害が深刻化しているが、予算が限られる中で選択と集中が必要で、優先順位が高い所へ投資していくという県の姿勢や取組を調書に記載していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 調書に記載する。
6	福本委員	<ul style="list-style-type: none"> 南沢川と雉子尾川は便益の変化要因②の増加幅が大きいですが、要因は何か。一般資産は増加しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般資産に大きな変化はなく、便益算定精度を上げたこと、特に浸水深が深くなったことが便益増の要因と考えている。
7	福本委員	<ul style="list-style-type: none"> 治水リスクが高いところに堤防整備後、資産が集中することについてどのように考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 流域全体で治水安全度を向上することを目的に事業を行っており、リスクが高いところに資産を誘導するつもりはない。一方、流域治水の取組としてリスクが低い土地へ資産誘導する流れとなっている。
8	福本委員	<ul style="list-style-type: none"> B/C だけではなく、社会状況の変化に対応していることも判断材料となるため、土地利用の変化についても示すことを今後、検討願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、検討する。
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等